



10月号をお届けします。執筆時点では、まだ日中は夏の暑さが続いています。日がだいぶ短くなり、朝夕は涼しさも感じられるようになりました。セミの声もミンミンゼミからツクツクホーシに変わり、夜にはベランダでコオロギが鳴いています。今年の8月は記録的な猛暑で、東京では猛暑日が11日間もあり、8月としては最多とのこと。東京の8月の平均気温は29.1℃で、2013年の29.2℃に次ぐ歴代2位タイの記録です。赤道直下のシンガポールの平均気温は28度台ですので、それよりも高いことになります。猛暑にともない、東京都23区の8月の熱中症による死亡者数は195人で、今までで最多となったことが報道されました。8月の東京都のコロナウイルスによる死亡者数は31人でしたので、それよりはるかに多くなっています。熱中症で亡くなった方の大半が、屋内で亡くなっているそうです。コロナウイルスによる外出自粛の影響があるのかもしれない。

新型コロナウイルスの感染拡大第2波は7月下旬・8月上旬がピークだったようで、その後少しずつ減っています。東京都の警戒レベルも一段階引き下げられ、8月15日で飲食店の営業時間短縮や東京都民の都外への旅行の自粛の要請も解除されました。しかし、緊急事態宣言時のような強力な感染拡大防止措置が取られているわけではないので、今後も感染が続く可能性があり、長期戦の覚悟が必要かもしれません。9月8日に発表された7月分の家計調査報告によりますと、7月の消費支出は前年同月比7.6%の減少となっており、回復基調であった6月より6.5%減少しました。コロナ第2波の影響が出ているようです。外食代は前年同月比26.7%の減少（6月は30.9%の減少）、そのうちの飲酒代は前年同月比54.0%の減少（6月は63.6%の減少）と若干の回復が見られますが、依然として低調な状態が続いています。

さて、醸造協会が管理している赤煉瓦酒造工場（旧醸造試験所第一工場）は各種セミナーなどの会場として利用されていますが、7月にテレビ東京のドラマの撮影があり、8月24日（月）夜8時に放送されました。月曜プレミア8という2時間の単発ミステリードラマで、タイトルは「警視庁遺失物捜査ファイル」というものでした。貫地谷しほりさんが、落とし物を持ち主に返すことにこだわる警視庁遺失物センターの職員を演じており、彼女の落とし物への思い入れが、殺人事件解決の大きな手掛かりとなっていくようです。貫地谷さんの勤務先の警視庁遺失物センターとして、赤煉瓦酒造工場が使われていました。セミナー等の会場として使われることが多い旧ボイラー室がセンターの受付と事務室になっており、新装なった白煉瓦造りの旧麴室が遺失物の倉庫となっていました。そのほかにも、廊下や階段なども登場しています。評判が良ければ、シリーズ化もあるとのこと。

アメリカの科学雑誌サイエンス8月14日号が紹介していたPLOS Biology8月8日号に興味深い論文がありました。牛乳を飲むとおなかの具合が悪くなる人がいますが、これは乳糖不耐症と呼ばれています。乳糖不耐症の人は、乳糖分解酵素がないために牛乳中の乳糖を小腸で分解・吸収できません。しかし、乳糖は大腸で常在菌によって分解されてガスや酸が生じるので、腹痛や下痢がおこります。一般に、哺乳類の子供は乳糖を分解することができますが、成長につれて、乳糖分解能を失うのが普通です。しかし、成人してもラクターゼ活性を保持する遺伝子を持つ人が、ヨーロッパ、アフリカ、アラブに高い頻度で存在しています。これらの人々は約6000年前に牧畜の発明とともに発生し、ヨーロッパに広がったようです。中央アジアにも多数の牧畜民がいて、馬の家畜化は中央アジアで始まったそうですが、中央アジアの牧畜民の遺伝子を調べたところ、乳糖分解能を持つ人の割合は少ないという意外な結果が得られました。この原因として考えられたのが、馬乳酒の存在です。中央アジアでは馬乳を生で飲むことは少なく、発酵させた馬乳酒で飲むのです。馬乳酒では、発酵中に乳糖分解酵素を持つ酵母や乳酸菌が乳糖を分解するので、人が乳糖分解酵素を持っていなくても大丈夫というわけです。人の遺伝子も生活様式の違いによって変化するものなのですね。